

チューリヒ歌劇場で フランス・オペラ2演目ほか

オペラ歌手とは「歌劇のなかで、演技しながら歌う職業」といってまで理解していた。しかし、ドリープ（ラクメ）を聴いたとき、題名役のサビース・ドゥヴィエルのような歌手こそが本物のオペラ歌手なのではないかと気づいた。

セミ・ステージ上演で舞台装置もなく、最低限の演技でも、声だけで、ラクメの心情から異国情緒、植民地における民族間の感情のズレ、神への敬愛とジェラルドへの愛情、すべてを表現できる「真のオペラ歌手」を目のあたりにしたからだ。

冒頭、ドゥヴィエルが舞台裏から歌う祈りで神へ仕える一人の少女を完璧に表現し、裸足の軽やかな立ち居振る舞いとあいまって、フランス女性をインド娘に見せる。その歌声は、聴衆に彼の地の原始的な風景すら思い描かせる。声に清らかな官能と歓喜が満ちあふれ、ジェラルドでなくとも魅了される。そして迎える《鐘の歌》は、コロラトゥーラを誇示するアリアとして単独でよく歌われるが、ラクメの複雑な心境がすべての音に籠っていると、超高音が控えめなほうが鳥肌ものなのだ。トランス状態のように歌うこのアリアをふくめ、ドゥヴィエルは絶好のラクメ歌いだ。

ジェラルド役のエドガルド・ロチャは、美声をよいボジションに当てて効果的に歌うが、2回目公演の4月8日に出演したの

に、まだ譜面台をのぞきながら二重唱も演じるので少々興ざめだった。ニラカンタ役のワイリッパ・スライもしつかり脇を固めた。指揮のアレクサンダー・ジョエルはそれらの歌手たちを引き立て、このオペラに新しい光を出した。

その《ラクメ》とよい意味で競い合うよう



チューリヒ歌劇場の《ラクメ》でタイトルロールを歌うドゥヴィエル © Toni Suter

り上げた。テッド・ハフマンの演出と三位一体といったところか。指揮のロベルト・フォレス・ベセスは音楽に深みを与えたが、甘さは欠ける。したがって、強い女性の色気を全面に出すわりには音楽的に平坦なフックスが歌うアリア（私は夢に生きた）では、揺れ動く少女心を細部までリアルに表現させたが、ロメオのアリア（ああ、太陽よ昇れ！）はもともと甘美に歌わせてほしかった。後半ではフックスの高音が苦しうだった。ベルネームの高音が強すぎた。細かい注文はいろいろあるが、ティボルト役のオメル・コビリヤク、ジェルトリュード役のカティア・ルドゥー、ステファノ役のズヴェトリナ・ストヤノヴァなど、周りも好演して、息もつかせない3時間弱だった。

4月14日は、先シーズンにスイス人演出家メラニー・フーバーが歌劇場のオペラスタジオ生をキャストに、隣町のウィンタートゥールで披露したドニゼッティ《ヴィーヴァ・ラ・マンマ》が、チューリヒ歌劇場でプレミエ上演された。主役のアンブロージョ・マエストリはもちろんだが、ダリア役を歌うアンナ・アクラト・ヴァのすごいアジリタ、ルイジャ役を歌ったデニス・ウズンの温かい声、グリエルモ役のアンドリュ・オーウエンスがほこる安定した歌唱技術と美声で観客を楽ませた。アドリアン・ケリーが率いるウィンタートゥール・ムジックコレギウムも柔軟な演奏で光った。

ディドナートとウィンタートゥール

その、現在上昇気流に乗っているウィンタートゥール・ムジックコレギウムがジョイス・ディドナートを1週間招き、すばらしい企画（チューリヒ芸術大学と共催でマ

スタークラスを開催）を実現させたことは先月もレポートしたが、その締めくくりに、3月29、30日、首席指揮者ロベルト・ゴンザレス・モンハス率いる当楽団と彼女は、ベルリオーズ《夏の夜》で共演した。

《夏の夜》の前にはR・シュトラウス《ナクソス島のアリアドネ》序曲を、休憩後にはシベリウス《悲しきワルツ》とブラランク《シンフォニエッタ》を配置し、「ダンス」つながりのプログラムだとのこと。ディドナートはすっかりウィンタートゥールになじみ、市庁舎隣のホテルで「赤いソファ」と題したトークショーにも登場し、音楽だけでなく、人間としていまをどう生きていくべきかまで語り、心を打った。

チューリヒ歌劇場の増築と ホロヴィッツ・コンクール

チューリヒ歌劇場の増築に関する記者会見が4月13日に開かれた。それによると、2030年ごろの増築を州などに働きかけており、5月も公開の意見交換会が催されるという。

これまでキーウで行われていたホロヴィッツ国際コンクールが、今年はジュネーヴに場所を移して、「キーウ・ジュネーヴ・ホロヴィッツ・コンクール」として、4月13日から21日まで開催された。日本からは平間今日志郎が第1次予選に、嘉屋翔太が第2次予選まで進んだ。ファイナルは4月21日、スイス・ロマン管弦楽団にウクライナ国立管弦楽団の団員も加わり、キリル・カラビッツの指揮でヴィクトリア・ホールにおいて行われた。結果はウクライナのローマン・フェディウコが優勝、第2位は英国のジュリアン・トレヴェリアン、第3位は韓国のパク・キョンソンとなった。